

7mの行路

「それでは、行きますよー。」

優しく微笑みながら声をかけられた。

私は静かに^{うなず}頷く。

少しの間^まが空いて

大きな扉がゆっくりと開く。

夢にまでみた箱入り娘の晴れ舞台。

大勢の人たちに見守られながら

白い光を^{まと}纏った娘と共に

7mの^{こうろ}行路をゆっくりと歩み出す。

ああ、まったく。手のかかる娘よ。

何度も悩まされ、何度も心が折れかけたよ。

とうとう私の手から離れるんだね。

ようやく1歩が踏み出せた。

ほら、見守る皆様にお礼をしよう。

ああ、まったく。寂しがり屋の娘よ。

ずっとこの日を夢見ていただろうに。

私の腕に^{すが}縋るのは昔から変わらないね。

寂しい？胸を張って！大丈夫。

ほら、輝く大海原まであと5m。

ああ、まったく。心の優しい娘よ。

私を気にかけて、ゆっくりゆっくりと

進んでくれているのかい？心配するな。

あと3m。ちゃんと泣かずに見送るよ。

新しい手がかりをしっかりと掴みなさい。

ああ、まったく。大きくなった娘よ。

あと1m、私の付き添いはここまで。

立派になったね。ここからは自分の力で

焦らずに進みなさい。

みんなが、あなたの追い風になるから

ああ、まったく。愛しい愛しい娘よ。

私の手から離れ、大きな海へ浮かぶ娘よ。

小柄な後ろ姿が、追い風を受けて大きく見える、自慢の娘よ。ありがとう。

これからはあなたが自慢できるように

私も頑張るよ。

これから進む未来に幸多き事を祈って

私の手から離れた娘は

しっかりと前を見据え、追い風を力に

キラキラと輝く世界へ真っ直ぐ進んで行く。

「これで一安心ですね！」

また、優しく微笑みながら声をかけられた。